

CASIO[®]

IDL-300NJ

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。未長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

カンオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2 ☎03-5334-4111(代表)

本機の特長

- 電波時計(国内2局対応 自動選局機能付)
福島県「おおたかどや山」(40kHz)
佐賀県と福岡県の境「はがね山」(60kHz)
- 生活環境お知らせ機能
- センサーにより、温度・湿度を表示
- 常時点灯ライト機能
- 時報機能

ご使用上の注意

- 本機は精密な電子部品で構成されていますので、「極端な温度条件下」、「強い磁気の当たる場所」、「はげしい振動のある場所」での使用や保管および「強いショック」をさけてください。
 - 高温では電池寿命が短くなったり故障の原因になったりしますので、暖房器具の近くや直射日光の当たる所では使用しないでください。
 - 浴室など湿気の多い場所では使用しないでください。
 - 以下のようなところに本機を置くことはお避けてください。
 - ・テレビの上など(テレビ画面に色むらが起こる場合があります)
 - ・時計、キャッシュカード、フロッピーディスク、プリペイドカード、カセットテープの近くなど
 - 極度の静電気により誤った表示をしたり、電子部品が破損する場合があります。
 - 静電気により一時的に液晶の点灯していない部分にじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。
 - 本機を分解しますと、精度や機能が低下しますので、絶対に分解しないでください。
 - 汚れは、「乾いた柔らかい布」か「中性洗剤に浸し固くしぼった布」でおふきください。シンナー・ベンジンなどの揮発油やアルコール類では絶対にふかないでください。
 - 液晶表示は、使用温度範囲(0℃～40℃)を超えると、表示が見にくくなることがあります。
 - 液晶表示は、見る方向によって表示が見にくくなることがあります。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんが、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

絵表示の例

⚡ △記号は「気をつけるべきこと」(注意)を意味しています(左の例は感電注意)。

🚫 〇記号は「してはいけないこと」(禁止)を意味しています(左の例は分解禁止)。

🔌 ●記号は「しなければならないこと」(強制)を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。

⚠ **危険**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ **警告**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**

袋をかぶって遊ばないでください

製品本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、手の届かない所に保管または廃棄してください。窒息の原因となります。

🔋 **電池の取り扱いについて**

使用している電池を取り外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

電池は、充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。

⚠ **注意**

🚫 **分解しないでください**

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。

📍 **設置場所について**

本機を不安定な場所に置いたり、不確実な掛け方をしないでください。倒れたり、落ちたりしてケガや故障の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

台所や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

🔋 **電池について**

電池は使い方を誤ると液漏れによる周囲の汚損や、破裂による火災・ケガの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、本体から電池を取り出しておいてください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

電池の着脱を長く伸ばし爪で行なうと、思わぬケガをおこす恐れがありますので、長く伸ばした爪での着脱はおやめください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。また、使用しないときは電池をはずしておいてください。

製品仕様

水晶共振周波数	：32,768Hz
表 示 内 容	：カレンダー表示(月・日・曜日)、 時刻表示(時・分・秒)、午後マーク／24時間制表示(24H)、温度表示、湿度表示
電 波 受 信 機 能	：自動受信(毎時1分)、手動受信 自動選局機能 〔受信電波＝長波標準電波 JJY〕 〔周波数＝40kHz／60kHz〕
精 度	：電波受信による時刻修正が行えない場合は、 平均月差±30秒以内。
温 度 計 測 機 能	：計測範囲＝0℃～40℃ *1 計測精度＝±2℃(0℃～40℃) *2
湿 度 計 測 機 能	：計測範囲＝10％～90％ (0℃～49.9℃において結果表示) *3 計測精度＝±10％(5℃～40℃) (例 湿度50％の場合、40％～60％の範囲で表示します) *2 ※温度計測・湿度計測は1分に1回計測します。 *4
生活環境お知らせ機能	：快適温湿度表示、お知らせアイコン、 温湿度比較表示(前日差／最高／最低表示)、 温湿度傾向表示
時 報 機 能	：常時点灯ライト機能で設定した時間帯を除く毎正時に時報音を報告。
そ の 他	：LEDライト(常時点灯ライト機能)、12／24時間制表示切替え、明るさ調整、コントラスト調整
付 属 品	：壁掛け用ネジ
主 要 回 路 素 子	：音叉型高性能水晶振動子、CMOS-LSI
使 用 温 度	：0℃～40℃
使 用 電 池	：単3形アルカリ乾電池(LR6)×2本(時計用)、 単2形アルカリ乾電池(LR14)×2本(常時点灯ライト用)
電 池 寿 命	：約1年(電波受信24回／日、常時点灯ライト機能8時間／日、 明るさは弱・時報16回／日)

<ご注意>

- *1＝ ・－0.1℃以下、40.1℃以上でも温度計測を行いますが、本機の温度保証範囲外となります。
・－20℃以下は“L0”表示、50℃以上は“HI”表示となります。
- *2＝ 温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測／表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで(時計内部がその温度や湿度と同じになるまで)約30分程度かかります。なお、計測機能上、本機を冷・暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。
- *3＝ ・9%以下は“L0”表示、91%以上は“HI”表示となります。
・湿度表示は温度が0℃～49.9℃の範囲外では“－”表示となります。
- *4＝ 電波受信中、時刻セット中は計測を中断します。

電波時計について

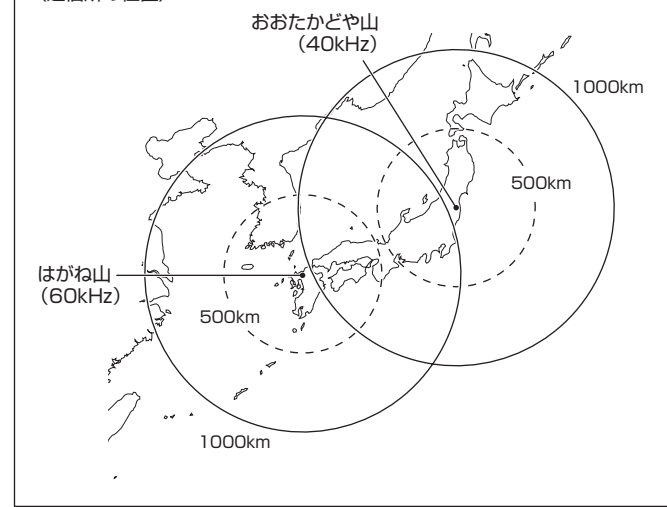
- 電波時計とは
正確な時刻情報[日本標準時]をせた長波標準電波(JJY)を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。
日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム原子周波数標準器」等により制御されています。

電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

●標準電波
標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が運用しており、福島県の「おおたかどや山」(40kHz)および佐賀県と福岡県の境の「はがね山」(60kHz)から送信されています。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信中断されることもあります。

●電波の受信範囲の目安
条件の良いときは、送信所からおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。
・ただし、約500kmを超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなる場合があります。
※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯(昼／夜)などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。
※一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。

<送信所の位置>
おおたかどや山(40kHz)
はがね山(60kHz)
1000km
500km



- 電波受信について
本機は「おおたかどや山」(40kHz)と「はがね山」(60kHz)の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行います(自動選局機能)。通常は毎日、電波受信を自動的に行ないます(自動受信)。

電源に関するご注意

- 電池の残量が残っている場合でも1年に1回は全部の電池を交換してください。
 - 電池が消耗しますと一般的に以下のようなことが起こります。このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください(定期的な交換をおすすめします)。
 - 原動作(時刻やアラーム等のリセット、報音の停止、時刻狂いなど)することがあります。
 - 液晶表示は「薄くなった」「消えたり」します。
 - アナログ時計は「時計が遅れたり」「針が止まったり」します。
 - 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
 - お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池のため、電池新品時の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
 - *モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことです。時計本体価格に電池代は含まれておりません。
- ※電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

- 使用場所について
本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。
以下のような場所では、電波受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。

マンションやビルなどの鉄筋、鉄骨の建物の中およびその周辺(ビルの谷間など)
※但し、窓ぎわで使用するとう受信しやすくなります。

高圧線、架線の近く

乗り物の中(自動車、電車、飛行機など)

家庭電化製品、OA機器のそば、金属板の上(テレビ、スピーカー、FAX、パソコン、携帯電話など)

電波障害の起さる場所(車庫裏、空港のそば、交通量の多いところなど)

山の裏側…など

- 正しく電波受信するために
●電波受信できる場所でお使いください(「使用場所について」参照)。
●本機を電波送信所方向に向けてと、受信しやすくなります(本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります)。

最も受信しやすい設置のしかた

・時計表示部または裏面を電波送信所に向かい合うようにする
・金属板の上などを避けて窓際で行なう

送信所

- 受信中(受信インジケータ表示中)に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。
- ボタン操作で現在時刻を修正すると、以後24時間自動受信は行ないません。ただし、この間に手動受信を行なうと、その時点で解除されます。
- 電波受信を行なわない間は、「製品仕様」記載の精度で計時します。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。

はじめてお使いになるときは(電池交換時もお覧ください)

「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください。

1 「表示用シール」を取り外します

機種によりデジタル表示部に「表示用シール」をつけて出荷しております。ご使用前に必ずこの「表示用シール」を取り外してください。

2 電池を入れます

電池ボタンを開き、⊕ ⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます(「電池交換のしかた」参照)。

3 リセット操作を行ないます

⑨ ボタンを押します。

デジタル表示部が「午後12:00 00」になります。
「午後12:01 00」になると自動的に電波受信を開始します。

※電池を入れた時点で時計としての動作が始まっていますが、そのままリセット操作をしてください。

※先端の細いもので押してください(製品を傷つけないようご注意ください)。
※リセット操作が終わったら電池ボタンを閉じます。

4 電波受信の様子を見ます(使用したい場所の近くに置きます)

- 本機を取り付ける場所の近くに置きます(図①)。

図① 取り付ける場所→

取り付ける場所の近くに置いて様子を見る

- 取り付ける場所が電波受信しやすいかどうかを受信インジケータで確認します(図②)。

図②

受信しにくい ← → 受信しやすい

- 電波を受信中は受信インジケータで受信状態をお知らせします。電波を受信しやすいと多く点灯します(最大5個)(図②)。
- 受信インジケータは使用場所を決める際の目安としてお使いいただけます。※1回の電波受信は約2～14分間です。
※電波を受信中はボタン操作をしないでください(電波受信を終了します)。

5 電波受信の結果を見ます

電波の受信に成功すると“OK”マークと“⚡”マークが点灯します(図③)。

図③

⚡マーク
1日1回以上、電波の受信に成功していることを表します。

OKマーク
最新の電波の受信に成功していることを表します。

- “OK”マークと“⚡”マークは正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります。
- ※⚡マークは、電波の受信に成功していても午前2時と午前3時になると一度消灯します。その後、電波の受信に成功すると再び点灯継続します。

- 受信できなかった場合

→数分後に電波の受信を終了します(そのままの時刻で計時されます)。
→受信状態が不安定で、時刻や月日の一部が修正されることがあります(⚡マーク不灯)。
上記のような場合は「電波を受信しにくい場合」をご参照ください。

- 1～2週間電波受信の様子を見ます
電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯(昼／夜)などによって変わります。
1～2週間様子を見ることをおすすめします。

“⚡”マークが常に点灯している、または点灯している時が多い
→そのまま、その場所でお使いになれます。

“⚡”マークが全く点灯しない、またはときどきしか点灯しない
→その場所では電波受信しにくいので、向きや場所を変えてください。
→その場所で使用する場合はボタン操作で時刻を合わせてご使用ください(「電波を受信しにくい場合」参照)。
そして受信可能な別の場所できき電波受信を行なってください。

6 本機を取り付けます

- 電波受信の様子を見た場所と取り付ける場所で、電波受信に差が出る場合があります。
- 時計を取り付ける場合、壁や時計を汚したり痛めることがありますのでご注意ください。

- ネジを壁に取り付けます(図④、図⑤)。

図④

照明の当たる場所

図⑤

壁材
10mm
ネジ
梁または柱

取り付ける場所は部屋の照明が当たる場所をおすすめします(図④)。

ネジを梁が通っている壁面または柱にしっかりねじ込みます(図⑤)。

取り付ける前に壁の材質・構造をご確認ください。付属のネジは指定の場所(梁、木の柱、木質の厚い壁)以外に使用しないでください。指定の場所以外に使用した場合、落下によりケガをする場合があります(石膏ボード・コンクリート・薄い化粧ベニヤ板などには使用できません)(図⑥)。

- 時計をネジに掛けます(図⑥～図⑧)。

図⑥ (裏面)

壁掛け用穴

図⑦

壁に取り付けたネジ

図⑧

○ ×

○ ×

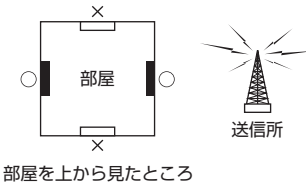
時計を取り付けた際、上下左右そして手前に軽く動かし正しく取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、落下によりケガをしたり、器物を破損する場合があります(図⑦、図⑧)。

電波を受信しにくい場合

●電波を受信しにくい場合

電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯(昼/夜)などによって変わります。「使用場所について」および「正しく電波受信するために」もご参照の上、＜電波受信の方法＞を試して1～2週間様子を見てください。

図 ⑨



＜電波受信の方法＞

本機の向きや場所を変えて⑩ ボタンを押してください(再度、電波受信を行ないます)(図 ⑨)。

●電波を受信しにくい状態がつづく場合

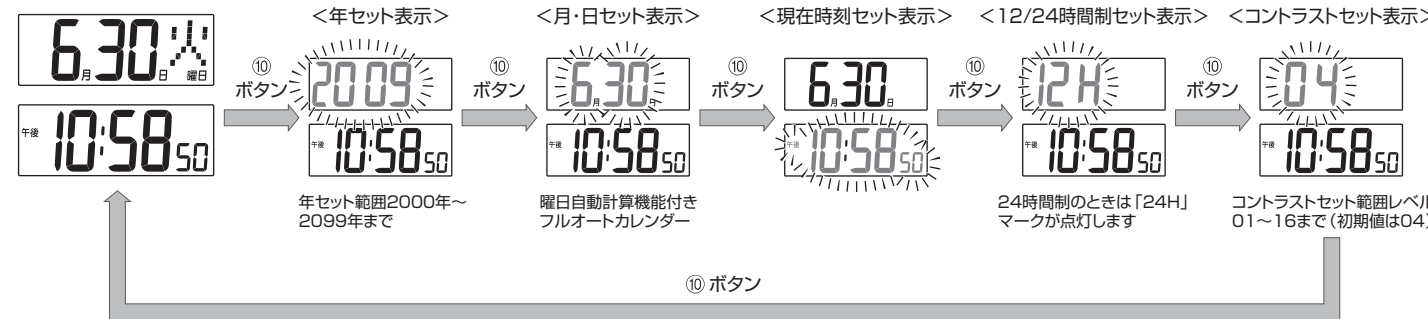
カレンダーや時刻等をボタン操作でセットして使用します(「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください)。

1 セット表示に切り替えます(⑩ボタンを使います)

⑩ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります(「各部の名称と表示の見方」参照)。

＜通常表示＞

例 2009年 6月30日 火曜日
午後10時58分50秒(12時間制表示)



2 カレンダーや時刻等をセットします(⑨ボタン、⑩ボタンを使います)

⑩ ボタンを押してセットしたい表示に切り替えます(「各部の名称と表示の見方」参照)。

→各表示の点滅箇所がセットできます。

- ⑦ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が進みます。
- ⑧ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が戻ります。

- ＜12/24時間制セット表示＞以外で、それぞれ押し続けると早送り/戻しができます。
- ＜時刻セット表示＞のときにボタンを押して分を進めた(戻した)タイミングで00秒になります。

時報機能の使い方

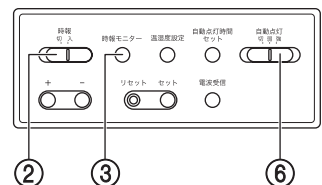
●時報機能

時報機能を入にすると毎正時に音でお知らせします。ただし常時点灯ライト機能の設定時間には時報音は鳴りません。

常時点灯ライト機能

開始時刻・・・時報は鳴りません。
終了時刻・・・時報は鳴ります。
(⑩スイッチの強/弱/切には影響されません)

(裏面)

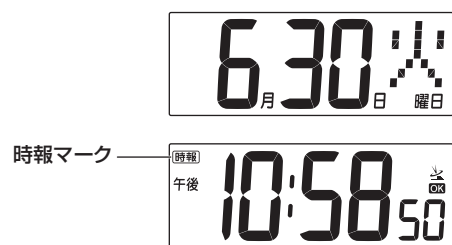


時報音で快適アイコンの点灯/不灯を確認することができます。

- 快適アイコンが点灯の場合→時報が2回報音
- 快適アイコンが不灯の場合→時報が5回報音

●時報の入/切

②スイッチで切り替えます。時報が入のときは時報マークが点灯します。

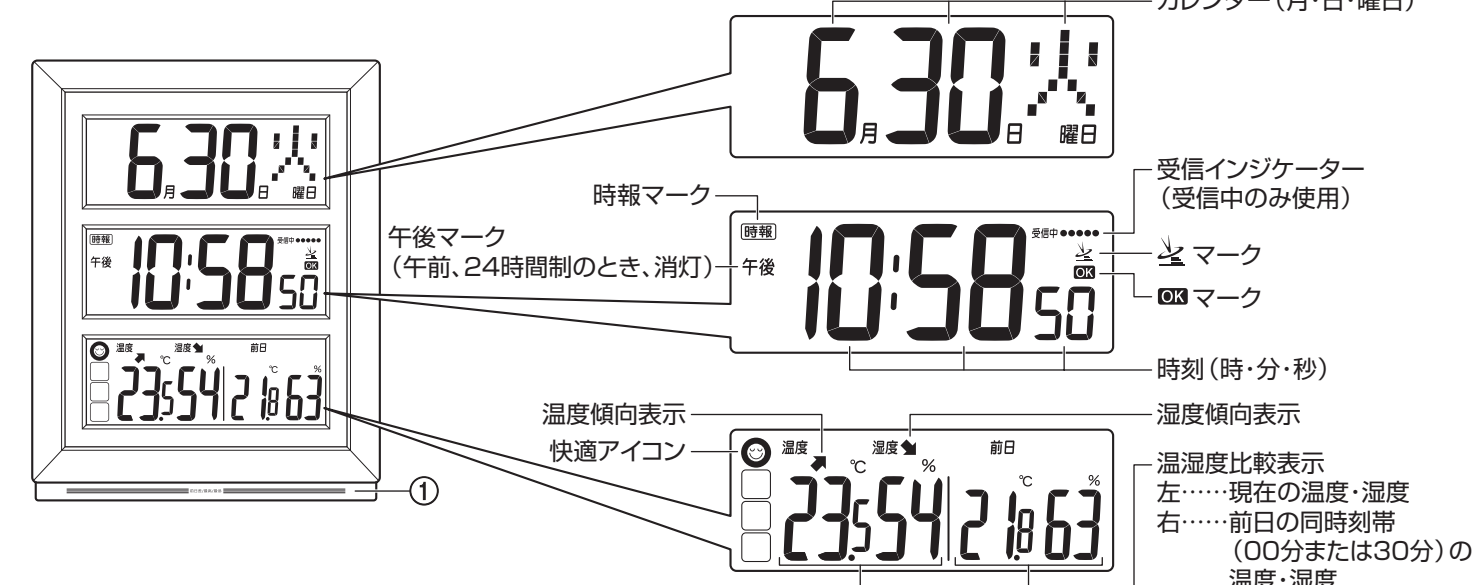


●時報をために聞くには

③ ボタンを押すと時報を1回聞くことができます。

各部の名称と表示の見方

(表面)



●デジタル表示部の見方

① ボタン (前日差/最高/最低)

今日と前日の温度差/最高温湿度/最低温湿度を見るときに押します。
※このボタンは取り扱いの最中に押されてしまうことがあります。その際は再度ボタンを押して表示を戻してください。

② スイッチ (時報 切 入)

時報の入/切を設定するときに使います。

③ ボタン (時報モニター)

押すと時報音をために聞くことができます。

④ ボタン (温湿度設定)

温度・湿度を設定するときに使います。

⑤ ボタン (自動点灯時間セット)

点灯時間を設定するときに使います。

⑧ スイッチ (自動点灯 切 弱 強)

照明の明るさを設定するときに使います。

⑦ ボタン (+)

現在時刻などを合わせるときに使います。

⑨ ボタン (-)

現在時刻などを合わせるときに使います。

⑩ ボタン (リセット)

電池交換後、必ず押します。
※リセット操作がしにくい場合は先端の細いもので押してください(製品を傷つけないようご注意ください)。

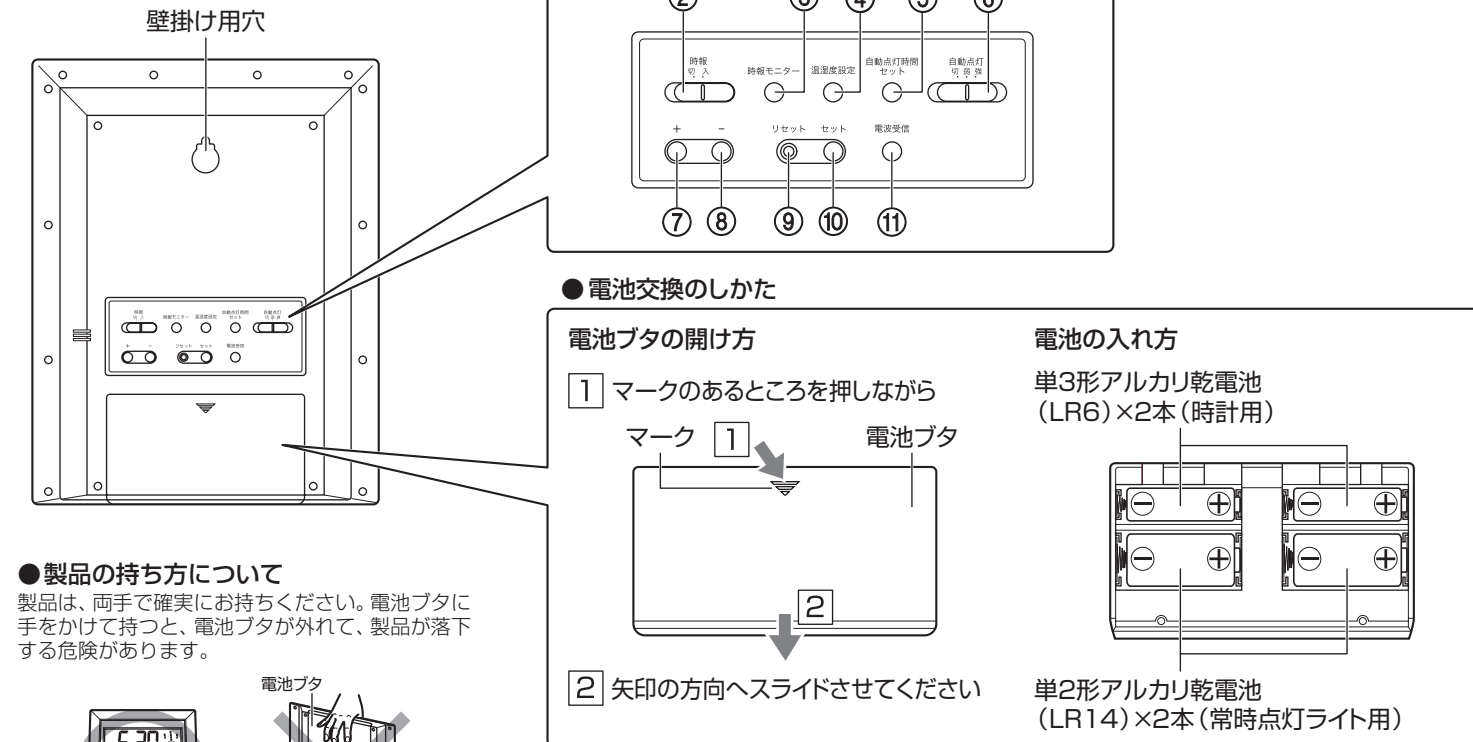
⑪ ボタン (セット)

現在時刻などを合わせるときに使います。

⑫ ボタン (電波受信)

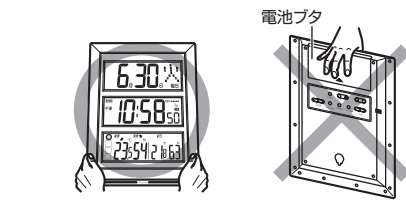
すぐに電波を受信したいときに使います。

(裏面)



●製品の持ち方について

製品は、両手で確実にお持ちください。電池ボタンに手をかけて持つと、電池ボタンが外れて、製品が落下する危険があります。



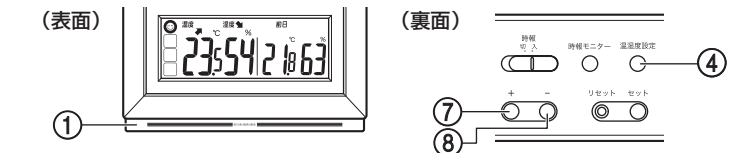
※ボタンやスイッチなどを操作するときは落下によるケガ、および器物の破損を防止するためにも、必ず本機を壁から取り外して操作してください。
※図は操作説明用ですので、実際の製品とはデザインなどが異なることがあります。

生活環境お知らせ機能の使い方

●生活環境お知らせ機能

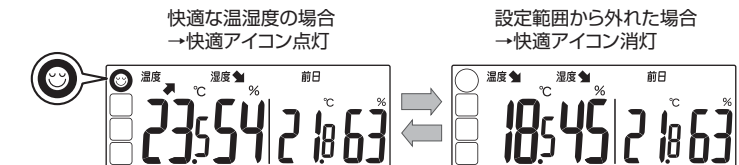
本機は内蔵のセンサーで現在の状態をモニターしています。モニターの内容は以下の表示で見ることができます。

- 快適温湿度表示
- お知らせアイコン
- 温湿度比較表示(前日差/最高/最低表示)
- 温湿度傾向表示



●快適温湿度表示

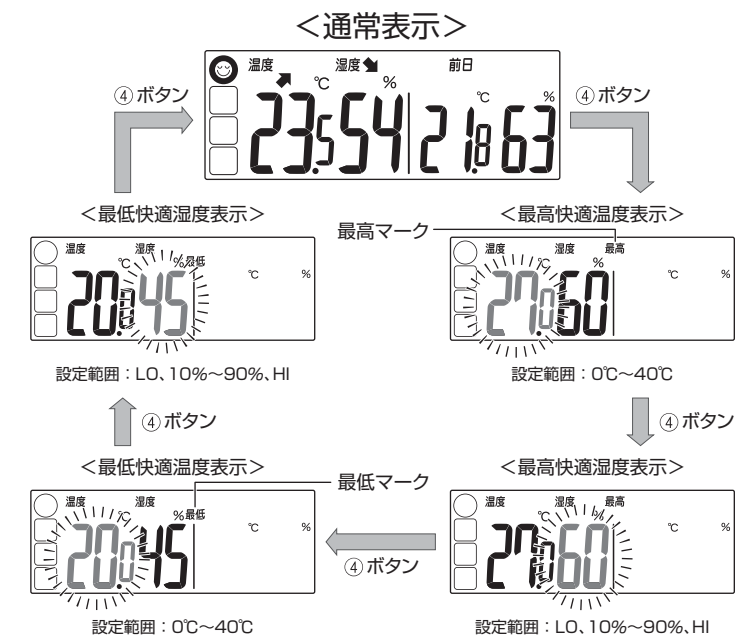
快適と感じる温湿度を設定し、その範囲内にあるときアイコンでお知らせします。以下の場合に便利です。
・エアコンなどの温度調節の目安



一般的に快適と考えられる温度(20℃～28℃)と湿度(40%～60%)が初期値として設定されています。そのままでもご使用になれます。

1 セット表示に切り替えます(④ボタンを使います)

④ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります(「各部の名称と表示の見方」参照)。



2 温湿度の範囲を設定します(⑦ボタン、⑩ボタンを使います)

④ ボタンを押して温湿度の設定表示に切り替えます(「各部の名称と表示の見方」参照)。

→各表示の点滅箇所が設定できます。

- ⑦ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が進みます。
- ⑩ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が戻ります。

・それぞれ押し続けると早送り/戻しができます。

3 通常表示に戻します(⑩ボタンを使います)

④ ボタンを押して＜通常表示＞に戻します(「各部の名称と表示の見方」参照)。

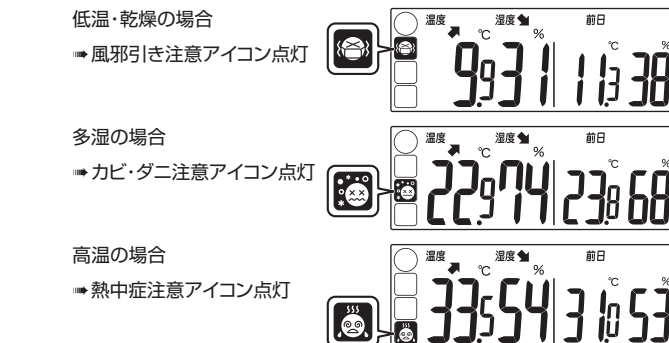
→通常表示に戻ったときに点滅は終了します。

※セット表示で何も操作しないと、約3分後に自動的に＜通常表示＞に戻ります。

●お知らせアイコン

本機は温湿度の計測データを基に現在の状態を分析します。生活環境に影響を及ぼすと考えられる場合にはアイコンにより注意を促します。注意のレベルは2種類あります。

アイコン点灯・・・注意
アイコン点滅・・・要注意(注意のレベルが高くなります)



※お知らせアイコンは(財)日本気象協会との共同企画で開発しております。

※(財)日本気象協会では生活に密着した気象情報を提供しております。詳しくはホームページ <http://tenki.jp/> をご覧ください。

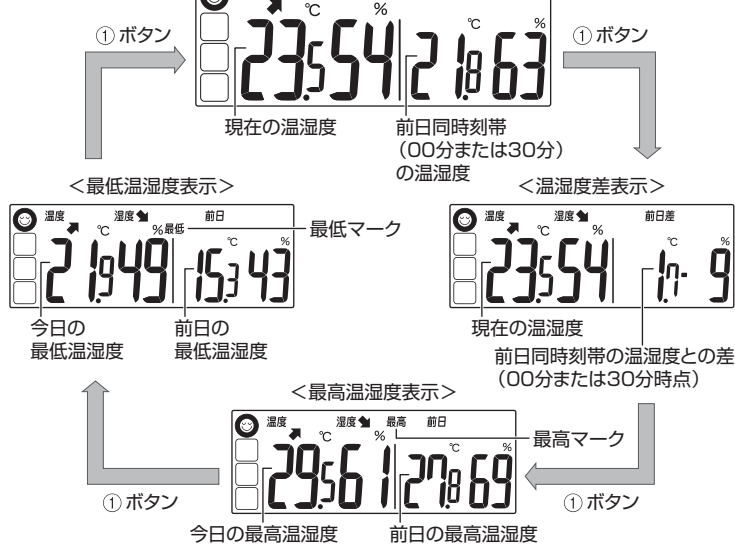
※ご使用にあたってはあくまで目安としてご使用ください(お知らせアイコンは消灯していても安全性を保证するものではありません)。

※万一、本機能により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社同様(財)日本気象協会でも一切その責任を負いません。ご使用の際は利用者の責任においてご使用ください。

●温湿度比較表示(前日差/最高/最低表示)

今日と前日の温湿度を比較することができます。以下のデータを表示します。

- 温湿度表示
- 温湿度差表示
- 最高温湿度表示
- 最低温湿度表示



●最高温湿度、最低温湿度は夜の12時にリセットします。
※本機は「温湿度表示」「最高温湿度表示」「最低温湿度表示」を数秒間隔で自動的に切り替えることができます。

① ボタンを約1秒間押し続けます
・・・確認表示(確認音付)を行なった後、各表示の自動切替えを行ないます。
① ボタンを押します
・・・表示の自動切替えを解除します。

●温湿度傾向表示

温湿度の変化を傾向マークでお知らせします。
・傾向マークは15分ごとに30分前の温湿度と比較し更新します。
・温度・・・30分前と比較し0.5℃以上の変化があった場合、上昇/下降傾向マークを点灯。
・湿度・・・30分前と比較し2%以上の変化があった場合、上昇/下降傾向マークを点灯。

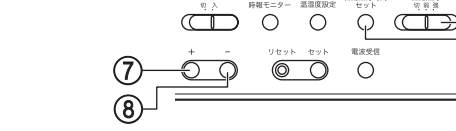


常時点灯ライト機能の使い方

●常時点灯ライト機能

夜間の暗いときでも時刻を見やすくするため、ライトを常時点灯します。

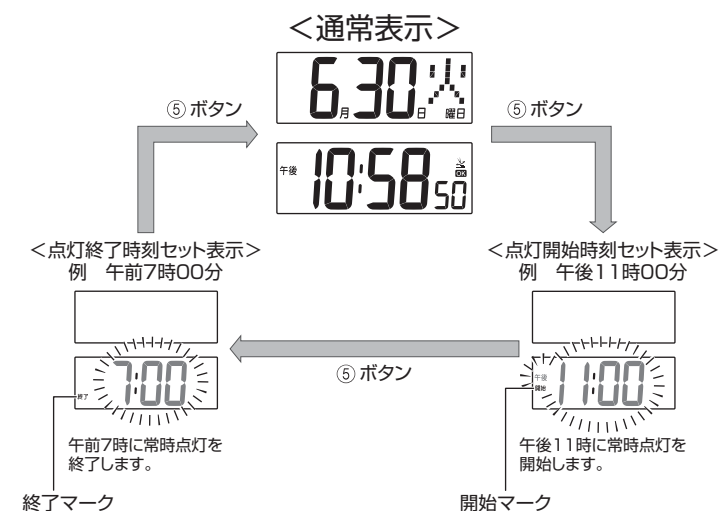
図 ⑩



- 開始時刻と終了時刻を設定することにより自動的に設定した時間帯を常時点灯にすることができます。
- 明るさ(強/弱/切)を設定することができます。

1 セット表示に切り替えます(⑥ボタンを使います)

⑥ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります(図 ⑩)。



2 点灯時間(開始時刻、終了時刻)を設定します(⑦ボタン、⑩ボタンを使います)

⑥ ボタンを押して点灯時間(開始時刻、終了時刻)のセット表示に切り替えます(図 ⑩)。

→各表示の点滅箇所がセットできます。

- ⑦ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が進みます。
- ⑩ ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が戻ります。

常時点灯の設定と電池寿命の目安		照明の明るさ	
1日当たりの点灯時間	強	弱	
8時間	6ヵ月	12ヵ月	
12時間	4ヵ月	8ヵ月	
16時間	3ヵ月	6ヵ月	
20時間	2ヵ月	5ヵ月	

3 通常表示に戻します(⑥ボタンを使います)

⑥ ボタンを押して＜通常表示＞に戻します(図 ⑩)。

→通常表示に戻ったときに点滅は終了します。

※セット表示で何も操作しないと、約3分後に自動的に＜通常表示＞に戻ります。

4 点灯機能の明るさを設定します(⑧スイッチを使います)

⑧ スイッチで切り替えます(図 ⑩)。

強(オン)・・・点灯時間になると、自動的に常時点灯を行ないます。明るく照らします。

弱(オン)・・・点灯時間になると、自動的に常時点灯を行ないます。光量を落として照らします。

切(オフ)・・・常時点灯は行ないません。